

## INTAPT (Interprofessional Applied Practical Teaching and Learning in the Health Professions) に参加して

長崎大学大学院 地域医療学分野 門田耕一郎

この度、カナダのトロント大学医学部の家庭医療・地域医療学講座で行われた INTAPT に参加することが出来ました。

今回、参加させていただくにあたっては新・鳴滝塾から語学的・経済的なサポートを頂きました。サポートなくしては参加することは難しく、本当に感謝しています。

INTAPT はトロント大学の大学院講義の一つとして開催されているレベルの高い2週間(10月に1週間+3月に1週間)の集中講座です。受講者は医師・看護師・保健師・栄養士など職種も様々で、今回はカナダだけでなく UAE やサウジアラビアなどからも参加していました。また英語が母国語ではない受講者も多数いました。(カナダ人でもフランス語が母国語の受講者が多かったです。)日本からは我々長崎からの3人と和歌山から1人、合わせて4人の医師が参加しました。英語が得意でない私は、3人の日本人の存在が非常に心強く、とても助けられました。

Interprofessional work/education については、昨今、日本でも注目されることも多くなり、長崎大学でも学部教育で多職種共修を取り入れています。しかし体系的・理論的に、そして実践的に学ぶ機会は初めてであったため非常に勉強になりました。何しろ、今まで医学教育理論など学んだこともなければ、理論に基づいて医学生に教えることもなかったからです。

講義・座学と共に、small group での workshop 開催やポスター発表などを創り上げていくことを要求される、今まで受講したことのないタイプのコースでした。コースすべてに自らの積極性が必要とされ、また product を創り出していかねばならない学習スタイルは、今後の長崎での医学教育でも大いに参考になることでした。

small group での workshop を、私はトロントとケベックに住む医師と半年で5回の skype での meeting を通して創り上げていきました。参加者を引き付けるための導入から、途中で飽きさせないための仕組みなどを含めて、workshop を企画するのですが、skype meeting は一回当たり4時間ほどにも及び、カナダ人の積極性と私自身の英語力の拙さを痛感しました。ただその甲斐もあって3月に行った我々の4時間に及ぶ workshop では、参加者を(多分)満足させたことだと思います。

また各々の workshop やポスターなどは、参加者みんながお互いに評価しコメントするため、緊張感をもって臨むことが出来ました。(日本と異なり、温かい中にも的確な指摘が含まれていました。)また、講義でも毎時限終了時に web による講義評価が行われ、次にすぐ反映されるシステムがありました。これが教える側と学ぶ側、そして学ぶ者同士がより高めあい成長していく環境を作っていく秘訣であると実感しました。

INTAPT で学んできたことを今後の長崎大学での医学教育に生かし、さらに質の良い医学教育を行えるように努力していく所存です。

このような機会を与えていただき応援して下さった、浜田久之先生をはじめとする新・鳴滝塾の皆様には感謝いたします。ありがとうございました。

